

○N. G. C.654 H VII 46 星團

赤經 1 時 38.5 分 赤緯北 $61^{\circ} 29'$

小さな星團だが星数は仲々多い。

○N. G. C.663 H VI 31 星團

赤經 1 時 40.5 分 赤緯北 $60^{\circ} 51'$

654 の一度南で密集した星の多い星團である。1 時でも見え 3 時 4 時には甚だ美しい。

○N. G. C.1027 H VIII 66

赤經 2 時 36.5 分 赤緯北 $61^{\circ} 12'$

比較的大きな星の散開した群で美しい。

○牡羊 λ 二重星

赤經 1 時 53.5 分 赤緯北 $23^{\circ} 13'$

4.7 等 : 6.7 等位置角 46.2° 距離 $37''.5$

離れた重星で伴星は青緑色 50 倍で充分見える。発見以後相対的位置に殆んど変化なし。

○牡羊 ϵ 連星

赤經 2 時 54.6 分 赤緯北 $21^{\circ} 2'$

5.2 等 : 5.6 等 位置角 203° 距離 1.4 秒

距離は 1.4 秒であるから 3 時には少し極限以下で二星像がひつついて見える。良い 3 時半なら分かれて見え絶好の試験星である。3 時半 150 乃至 200 倍は必要である。

連星ではあるが位置の特別な変化の爲週期は決定されない。

天體觀測用としての双眼鏡

双眼鏡を持つて居られる方は随分多いが此れを使用して居られる方は少い。月を見て火口等が案外明瞭に見えるのに驚かれるでせう。双眼鏡で見たプレアデス群等は仲々見事なものである。3 倍の双眼鏡で見得る星雲星團は百個近くもある。恒星については 6 等星まで見えるから星数は随分多い。變光星觀測を望遠鏡で觀測を始めるに常に双眼鏡が必要になつてくる。5 等乃至 7 等星を觀測するには双眼鏡が最良である。望遠鏡では都合が悪い。双眼鏡を使つて觀測し得る星は常に數十ある。肉眼で不満足な感ぜられる方は安價な方法では双眼鏡が第一である。プリズム双眼鏡は高價で不適當であるがガリレオ式が良い。廣い範圍を見る爲に口径 1 吋半 3 倍位のものが適當である。價格は 20 圓乃至 25 圓

双眼鏡の外眼鏡屋で賣つて居る口径 1 吋 15 倍位の景色用望遠鏡も有効である月の火口、木星の衛星星雲星團等通常の目的物は充分に見得る。價格は 15 圓乃至 25 圓位である。觀測に使ふつもりなれば双眼鏡より此の方が好い。

觀測部より

觀測部集會

8 月 11、12 日夜京大天文臺で行はれたが 11 日來會者 5 名 12 日 2 名であつた。11 日夜には 3 名居殘られ午前 3 時までヘルセウス流星群觀測。12 日には岡山の水野及び神戸の森下兩氏來會徹夜してヘルセウス流星群及び諸種の天體を觀望せり。兩夜さも夜半夜快晴となり愉快なる觀測日和であつた。

ヘルセウス座流星群

天文臺に於ける中村要池田政晴兩氏の觀測以外岡山縣津山町の山本孝二郎君及び大阪の樫原徳三郎君より報告があつた。

觀測期間には概して晴天にて月は新月に近く好都合の下に行はれた。

觀測者	觀測時間	日	流星數
中村 要	3 時 49 分	11.12.	64
池田 政晴	1 15	12.	12
樫原徳三郎	6 20	12.13.14.16.	36
山本孝二郎	1 25	12.	26

四名の觀測者の時間は 12 時 49 分で記録した流星は 132 箇である。其の中でヘルセウス流星群に屬するものは約 90 個で過半数を止めて居る。記録した流星以外不熟練及び不正確等の理由で記録しなかつたものは甚だ多い。

輻射點は次の如く決定された。

日	赤経	赤緯	流星數	一時間平均
11	46°	+55°	16	7
12	48	+53	38	11
13	45	+55	7	5
16	54	+53	6	2

デニング氏の表より輻射點は南にある。輻射點は一點にあらずして約6度の直径を有し特有の流星を輻射する。

一時間平均數は甚だ少なすぎる。一時間に認め得る流星は12日早朝には少なくとも40以上を推算した。

0等以上の大流星

時	日	時	分	出現點	消失點	等級	繼續時	群	觀測者
11	午前	2	31	359° +66°	298° +56	0	0.8秒	ペルセウス	中村
12		0	33	70 +41	75 +34	-1	0.5	ペルセウス	中村
同		0	51	20 +56	358 +55	0	0.5	ペルセウス	中村
同		1	07	15 +47	2.5 +39	-1	0.6	ペルセウス	池田中村
同		1	16	50 +51	52 +49	-0	0.6	ペルセウス	池田中村
同		1	18	63 +62	5 +88	-1	—	?	池田
同		1	38	80 +5	98 +68	-2	0.8	ペルセウス	池田中村
同		1	48	75 +66	97 +69	0	1.0	ペルセウス	中村
同		1	50	—	—	-1	—	?	池田
同		1	55	44 +49	41 +39	-0.5	0.4	ペルセウス	池田
同		2	28	359 +15	350 -17	0	0.6	ペルセウス	山本
同		3	21	9 +41	31 +35	-1	0.3	不明	樫原
13		3	13	8 +30	339 +10	0.5	1.2	ペルセウス?	樫原

例年のペルセウス群として金星大の火球のなかつた事や流星數から見ても比較的淋しい流星雨であつた。極大は明らかに十二日早朝に起つたが13日11日此れに次ぐものであつた。

ペルセウス群以外副産物として得た群は魚座β群347°+3°で七箇の流星が觀測されて居る。

觀測部の最初の流星觀測であつたが豫想以上の好成績であつた。次の試みには多數の會員諸氏の加はられん事を望む。

アルゼンチン國立天文臺の六十吋反射望遠鏡

米國のアーナーズエジャー會社はペライン氏の臺長たるアルゼンチン國立天文臺の爲に60吋反射望遠鏡を完成せり。

大鏡は口径61吋ありて厚みは中央にて七時半にて重量は2000ポンドあり。焦點距離は24呎6吋あり即ち F 4.8にてウイリソン山六十吋と殆んど同等なり。ニュートン式として使用する小鏡は楕圓にて短徑12吋あり。

カセグレイン式として使用する小鏡は二個ありて何れも直径16吋半にて合成焦點距離各68呎及び112呎あり。後者はカセグレインクレータとして使用せらる。

光學部分は總て有名なるブラシアー會社製なり。

マウンティングはウイリソン山六十吋と似たるフオーク型にて附屬設備は完全なり。筒はフレームにあらずして通常の屈折鏡と同様なり。南半球最大の反射鏡なるを以て此の有力なる器械により幾多の新事實が発見されるを信す。

○岡山支部七月通信

一。天界研究會 第二土曜日(十四日)午後七時から宮原幹事宅にて開催した。

二。家庭宣傳 水野幹事は左記の通り家庭宣傳を行つた。

二十四日 川村大佐宅

二十八日 石倉少佐宅

二十九日。三十日 土屋少佐宅

三十一日 佐々木少佐宅